

高松大学での就職支援プログラムの実施報告書

【事業名】

発達障害的特性の高い学生への就労支援プロセスの社会実装

【事業内容】

学生向けの就職支援プログラムの実施

【趣旨】

発達障害的特性の高い学生への支援に対して大学では対応への困り感を感じている現状であるが、学生自身の困り感の整理や自己理解を深め、卒後を見据えた「働く」に対しては、個別支援で対応してきていたが、支援学生の集団を対象とする就労プログラムの提供は実績がなかった。そういった現状から学内での支援学生を集団で対応する就労プログラムの予算化の難しさがあった。本事業は費用を掛からない形で就職支援プログラムの実施・実績を作り、学内での次年度以降の予算が確保しやすくするための促進的活動として実施した。

【対象大学】

高松大学・高松短期大学 学生学修支援室

【参加学生】

高松大学・高松短期大学 学生学修支援室に相談を定期的に行っている学生 10 名

【実施日】

2024 年 8 月 21 日(水) 10:00~15:00

【実施形態】

ZOOMを用いたオンライン講座とオンデマンド配信

【就労プログラム内容】

プログラム名:就職を意識したコミュニケーション力養成講座

(チラシ)

配葉を定額した
コミュニケーション力養成講座のお知らせ

講座について

外部から就労支援を専門とした臨床心理士等をお招きし学生生活において困り感を改善・解消できるようなプログラムを開催します。
今後の就活にも役立つ内容となっています！
臨床心理士等をもとにしたグループワークなど、実践的に体験できる研修となります。

ぜひお気軽にご参加ください！

講座内容

働くとは・ストレスへの対処
多様な働き方を講座
困った際のサポート機関の情報提供
企業のお話もあります！

申し込み先

高松大学・高松短期大学
学生学修支援室
acroom@stg.takamatsu-u.ac.jp
Googleクラスルームコード
「17swyeg」

申し込みフォーム →

この研修はNPO法人Job Support Networkと
兵庫教育大学池田研究室と共催です

講座内容:

(AM)

働くについて・障害者雇用についての講義、認知行動療法を用いたストレスマネジメント講座、外部の支援機関紹介

講座中に3つの質問を参加学生に問いかけ、他の参加学生や大学スタッフ、JSNスタッフ側の意見共有を行った。大学スタッフとの事前打ち合わせにおいて、挙手を促して全体に向けた発言は、不安感から活発な意見交換が難しいと予想された。そのため、Google フォームのアンケート形式で、スマートフォンから入力を求めた。匿名性を保って、JSN スタッフ側から全体に向けて各学生とスタッフ側からの意見を共有した。(下記が質問内容の資料スライド)

働くことについて

・社会に出たら、働くこと。当たり前のように聞いてきた『働くこと』って一体どんなことなのでしょう。今回は、働く意味や働くことで得るものについて簡単に学びながら、働きたいと思ってから就職に至るまでに感じやすい不安についてまとめていきます。
質問があったら遠慮なく言ってくださいね。

●働くことは？
みなさんはなぜ働きたいと思うのですか？

●働く前は不安がいっぱい
みなさんは、働くことに対してどういう不安を感じていますか？

●あなたの将来の夢は何でしょうか？働いて得た収入でしたいことは？
働く意欲につながりやすい大切な内容です。
こちらのQRコードから回答してください。→

©2024 Ikeda Laboratory All Rights Reserved.

では、自分を知るってどのように？

・自分の気分と感情について少し整理するワークをします。

“気分”ってどんなもの？

“気分”といわれるものはどんなものがありますか？
良い気分と悪い気分、それぞれ分けて考えてみましょう。
ヒントは、一言で言い表せるものです。



1回答フォーム

《良い気分》 例：うれしい、落ち着いている など・・・

《悪い気分》 例：悲しい、心配 など・・・

こんなときどんな気分になりますか？
 以下の場面を想像してみましょう。どのような気分になりますか？

場面①
 会社に行くときに、近くの駅で同じ職場の社員を見かけました。
 「おはようございます」とあいさつをしましたが、返事はありませんでした。

あなたならどんな気分になりますか？

ちなみに、どのような考えやイメージが頭の中に浮かんできましたか？

ちなみにちなみに、次にその社員を見かけたときはどうしますか？

回答フォーム

働くためのモチベーションを引き出すためのワークとして、「なぜ働くのか」という質問を行った。回答は、「収入を得るため」が多く、次いで「社会参加」といったものが多かった。参加学生は収入を得ることへの自己実現やほしいものを購入するといったものよりは、自立した生活を送るためや家族を養うためといった趣旨の回答が目立った。

自分を知る講座において、「自分の気分と感情を整理するために、良い気分と悪い気分はどんなものか」という質問に対し、良い気分は「楽しい」という回答が多かった。悪い気分は「不安」が多かった。そこから具体的なシチュエーション(左上の資料スライド)を提示し、受け手側である自分の「気分」、「考え・イメージ」、「次、同じ状況が起きた際どう行動するか」というところで意見を記入してもらった。全体的に、悲しい気持ちや不安な気持ち、怖い気持ちなどネガティブな反応であった。考えやイメージには「声が小さくて聞こえなかったかもしれない」「嫌われたかもしれない」「他の人に話しかけたと思われかも」「相手が急な挨拶でびっくりした」であった。ネガティブな反応しているが、必ずしも自分が原因だけでなく、物理的な問題等で相手から反応がなかったのではないかという考えもあった。次回以降の行動は「見ていないふり」や「声をかけてみる」「聞こえるように挨拶する」「会釈する」「様子見してから行動」という様々であった。

(PM)



地域の支援機関と企業との取組紹介

- ・かがわ新卒応援ハローワーク 様
- ・かがわ若者サポートステーション 様
- ・株式会社スミセイハーモニー 様
- ・社会福祉法人 ラーフ 様

上記の支援機関・障害者雇用を行っている企業に登壇していただいた。在学中・卒後の相談先を知ることや地元の企業の取り組みや障害者雇用について知る機会を設けた。

【感想】

午前講座について	午前講座の参考になった内容 (自由記載)	午前講座の感想 (自由記載)
とても良かった	自分自身の考え方の傾向やストレス対処について	自分自身の考え方の傾向やストレス対処について知ることが出来て良かったです。
とても良かった	自分を知るために必要なことを知ることが出来ました。	自分の苦手を伝えることは苦手ですが、伝えないと何も始まらないことがわかりました。
まあまあ良かった	自分の苦手なこと、得意なことを自分自身が知ることが大切であることがわかりました。	分かりやすく自分が取り組めることを知ることができて良かったと思いました
まあまあ良かった	ハローワークがどのようなところかや、相談の仕方など、知らなくて不安であったことを知ることができた。また、働く上で大切な考え方を学べた。	働く意味や、ストレス対処法など、今後の就職に役立つことを学びました。ありがとうございました。印象に残ったことは、「物事の捉え方はみんな違う」ということです。自分の捉え方について自己分析を行い、どのようにストレスに対処したり、働き進めたりするか、今後考えていこうと思います。
とても良かった	働くとはなにか、ストレスへの対処や自分の捉え方について学ぶことができました。	就活をする際に利用できる施設やサポートについて詳しく知ることができました。

しごとプラザ高松 (新卒応援ハローワーク)の 講演について	しごとプラザ高松 (新卒応援ハローワーク)の 参考になった点・感想
良かった	就職までの流れがわかりました。
とても良かった	気軽に相談してみようと思いました。
まあまあ良かった	仕事探だけでなく、面接の練習や個別の相談も受け付けていてそういったことを相談出来る場所があることを知れるきっかけになったなと思いました。
まあまあ良かった	ハローワークの相談の仕方について学びました。相談する時は、どのようなことを相談したいのか自分の中で明確にした上で、相談しようと思います。ありがとうございました。
とても良かった	施設の中に様々なコーナーが設置されていて、自分が困っていることに向き合うことができるなと感じました。

かがわ若者サポートステーションの 講演について	かがわ若者サポートステーション の参考になった点・感想について
とても良かった	就職で悩んだり生活で悩んだりしたら、色々なことを相談できると思いました。
とても良かった	相談の内容が多岐にわたっており、地域の若者のために必要な居場所だと思いました。
まあまあ良かった	就職までの面接等のサポートはもちろん就職後のサポートしてもらえる場所があることを知ることができて良かったと思いました。
まあまあ良かった	就職のために訓練したり体験したりできる機会があると学べました。就職で困った時に相談しに行こうと思います。ありがとうございました。
とても良かった	問題思考ではなく解決思考で考えるのはとても大切なことだと思いました。また個別サポートが充実しているのも相談しやすいと思いました。

株式会社スミセイハーモニーの 講演について	株式会社スミセイハーモニーの 参考になった点・感想について
とても良かった	自己紹介会を行っていると聞いて自分をよく知 ることはとても大切だなと思いました。
とても良かった	合理的配慮の捉え方がいinaと思いました。
まあまあ良かった	合理的配慮についてやダイバーシティについて 詳しく知ることができたと思いました。
とても良かった	障害者も就職しやすい企業があることが分か りました。理念や考え方がとても参考になりま した。私も、自分の出来ること・できないことを 明確にして自己分析して、配慮が必要なことを 周りに伝えられるように頑張ります。ありがと うございました。
とても良かった	ダイバーシティという言葉をはじめて聞きまし た。できることできないことをあらかじめ 共有し働きやすい環境になっているのが とても良いと思いました。

社会福祉法人ラーフ の講演について	社会福祉法人ラーフの 参考になった点・感想について
まあまあ良かった	自分自身もっと視野を広げて人生をもっと楽しもうと思いました。
とても良かった	できないの壁に挑む挑壁者という考えが素晴らしいと思いました。
まあまあ良かった	今後の就職してからのこととかに繋がるような話を聞くことができたかなと思いました
まあまあ良かった	事故から復活して、得意を生かして企業していることがとてもすごいと思いました。私も自分の得意なことを生かして活躍できるよう、頑張ります。ありがとうございました。
とても良かった	スタッフごとの時間割が決まっているということに驚きました。

全体を通じて の感想	改善してほしい点	満足度は 100 点満点 中、何点ですか。
自己分析や考え方が広がりました。 困ったら相談できる箇所を複数も ったり、人生を楽しむことは大切だ なと思いました。	特にないです。	70 点
少し就活に前向きになれそうです。	特にありません。	100 点
相談出来る施設や自分でも取り組 めることを知れてとても良かった なと思いました。	特になし	80 点
就職についての不安が少し和らぎ ました。相談できる機関があること を知れたので安心しました。	なし	90 点
就活に対する不安が少し減りまし た。	なし	90 点

(結果から)

前半は、学生が自身の考え方や捉え方の傾向を知るきっかけとなった。考え方の傾向と併せて、ストレス対処についてもワークを通して学んでいた。参加学生の全体的には就労や対人に関する不安はあった。働くことへの不安は、不安の理由を分類して、自分ほどの不安に当てはまるのかを検討することで明確化した。

コミュニケーションの不安においては、不安はあるものの相手側の感情や行動への推察は様々であり、またそこからの行動もさまざまであった。意見の情報共有を行うことで、「物事の捉え方違う」とことと学生自身の認知に対する行動の引き出しが増えたと感想から読み取れた。

後半は、高松市の地域資源である新卒応援ハローワークと若者サポートステーションでは相談の仕方や各機関のサポート内容を知ることができ、利用のイメージができた。また、そこで実際に支援を行っているスタッフの方が登壇することで、「この人に相談したらいい」といった安心感を持つことができ、学生の中で相談へのハードルが下がったと思われる。

香川県内の企業・法人がどういった事業をしているのか、障害者雇用はどういったものなのか、なぜこういった理念なのかといった企業のストーリーを知ることへの不安が軽減された。就職活動への不安が和らいだといった感想が多かった。

●まとめ

講座実施後に大学側と振り返りを実施した。大学側から今回の講座を通しての感想は、「講義で提供した内容も「初めて聞きました」と書いている学生もいて、違う環境から聞くと理解の仕方も違い、今回の講座で各々得たものがあつたように感じれた。参加学生の3分の1ぐらいは、お互い面識があるものの、それ以外は相互交流もない中、一緒に受講していた。昼休みは学生同士で昼食をとる姿も見受けられ、「自分だけじゃないんだ」ということを学生同士が感じられたのではないかなと思われる。Google フォームの共有で、痛みのない形で自分の着眼点の幼さも気づける学生や、通常の学生に交じってそういう経験をすると、当事者性があるからと帰結しそうだが、要支援者同士での参加だったので、マイルドに気づけるところもあつた」とコメントがあつた。また、今回の講座を受けて、オープン就労で面接を受けて就職が決まったという学生もいたと報告もあつた。

以上から、コミュニケーションが苦手な傾向がある学生に自分の意見を考え伝えることと他者の意見を聴ける機会を対面よりも匿名性の高いもので共有することで、自尊心を傷つけない形で客観的に新しい気づきに繋がりがやすくなると考えられる。

また、地域資源や企業にアクセスできる情報得る機会を提供することで働くことへのハードルが下がり、就職活動に着手しやすいといった成果があつた。

(次年度について)

今回の試行的に行つたことを実績とし、次年度の打ち合わせを高松大学の関係者と行つた。次年度の講座実施する流れで講座内容・回数・形態・時期と見積りについて検討した。最終的には見積書が予算会議で通り、次年度も講座を実施となつた。